

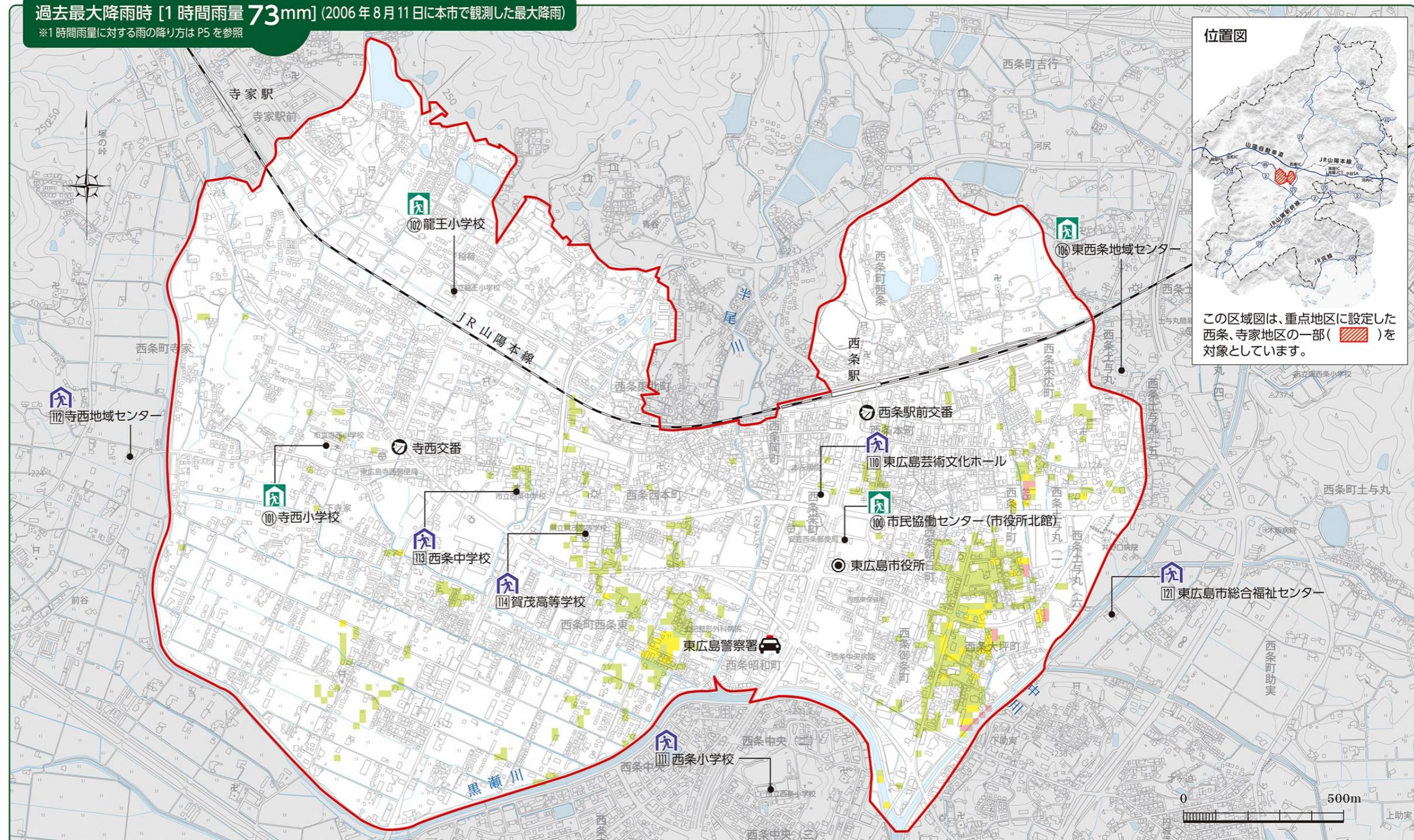
内水ハザードマップ(内水浸水想定区域図)

内水ハザードマップ

- この区域図は、内水による浸水を想定した図面です。
- この区域図は、過去に本市で降った最大降雨と同様な雨がこの地域全体に一律に降った場合の浸水を想定しています。
- 局地的な集中豪雨の発生や土地利用状況の変化などによっては、この図面で浸水していない箇所でも浸水の被害が発生する可能性があります。

過去最大降雨時 [1時間雨量 73mm] (2006年8月11日に本市で観測した最大降雨)

※1時間雨量に対する雨の降り方はP5を参照



区域図の表示色



凡 例

	まず初めに開設する指定避難所 (P61・62参照)
	それ以外の指定避難所 (P61・62参照)
	市役所
	警察署

「内水」による浸水



降った雨は水路などを通つて河川に放流されます。しかし、近年雨の降り方が局的に激しさを増しており水路などの排水施設の能力が追いつかず排水できないことがあります。このように降った雨が河川にたどり着く前に地域で溢れて浸水する状態のことを「内水浸水」と呼びます。

「外水」による浸水



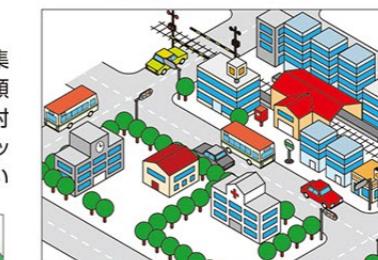
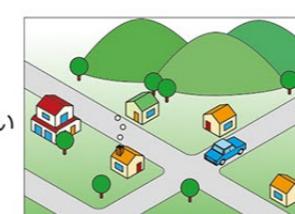
大雨によって河川の水位が高くなり堤防を越えて水が溢れたり(溢水)、堤防が壊れたり(決壊、破堤)する場合があります。このような河川が原因で地域が浸水することを「外水浸水」と呼びます。
※上図の赤枠における外水による浸水想定区域図はP32・34ページを参照

内水浸水を軽減させるための整備方針

過去の内水浸水被害の発生状況や人口、施設等の集積状況などを勘案して浸水対策を実施する地区を順位付けし、上位になった地区(重点地区)から、浸水対策施設の建設によるハード対策と内水ハザードマップ作成などによるソフト対策を推進することとしています。

一般地区

- ・浸水被害が少ない
- ・人口散在



重点地区(優先整備)

- ・浸水被害が多い
- ・人口密集
- ・重点施設集積
- ・交通拠点

現在、東広島市では西条、寺家地区の一部を重点地区に設定し、浸水対策施設の建設を進めていますが、施設が完成しても想定外の雨が降り、施設の能力不足や河川の水位上昇により雨水を排水できない状況が生じた場合には浸水が発生する可能性があります。そのような場合に被害を最小限にとどめるためには、住民の皆さんの自助・共助が重要となります。そのため、この内水ハザードマップを活用いただき、いざという時の避難経路や避難場所などを日頃から確認してください。